

2019年度(令和元年度)「自ら考え学ぶ授業づくり」アクションプラン

〈学校用〉

校番(33)番 福山市立 至誠中 学校

1 育成する力(21世紀型“スキル&倫理観”)

| 育成する21世紀型“スキル&倫理観” | 「言語・数量・情報」 | 「問題解決力」「情報活用力」 | 「コミュニケーション能力」「主体性・協調性」 |
|-------------------------------------|---|---|------------------------------------|
| めざす子ども像(21世紀型“スキル&倫理観”を身に付けた児童生徒の姿) | ○言語・数量・情報に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、問題解決のために活用する。 | ○知識・経験・社会状況などを関連づけて発見した課題を、多角的に収集した情報を分析・評価しながら解決し、効果的な方法を工夫して発信する。 | ○共感的・建設的に他者と考えを交流し、仲間と協働して問題を解決する。 |

2 授業の現状

徐々に教師主導の授業から学習者基点の授業になりつつあるが、知識の習得に重点が置かれた授業が多く、生徒は主体的・対話的で深い学びにまでは至っていない。

転換

3 めざす授業の姿

- ・知的好奇心・課題意識から出発する、生徒にとって学びがいのある授業。
- ・「わかった」「できた」が実感でき、資質・能力の高まりを生徒が感じられる授業。
- ・基礎的・基本的な知識・技能を教科横断的につなぎ・活用して問題解決をする授業。

4 めざす授業に向けた取組の具体

| 4月からの取組 | 8月末の状況 | 9月からの取組 | 12月末の状況 | 1月からの取組 | 2月末の状況 |
|--|--|--|--|--|--------|
| <ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の定着と活用力の向上 ・単元構成を見直し、考える過程を重視した授業の工夫 ・各調査問題・結果の分析を生かした授業づくりと定期試験・評価の工夫 ○主体的・協働的に課題解決する総合的な学習の創造 ・地域人材・素材の計画的な活用 ・学習成果を提案・発信するスキルの向上 ・地域への貢献意識の醸成 | <ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の定着と活用力の向上 ・授業始めに前時の確認・復習を丁寧に行うとともに、セミナー・自主ノートなどの確認・評価を行い、基礎・基本の定着に努めた。 ・教員間で毎月10分間参観を実施しており、互いに助言し合って授業力の向上を図った。 ○主体的・協働的に課題解決する総合的な学習の創造 ・福祉体験(3年)、サイクリングマップ、チャレンジウィーク(2年)、外部講師(1年)などで地域と連携した。 | <ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の定着と活用力の向上 ・引き続き家庭学習の確認・評価を確実にやっていく。 ・「全国学力」の結果分析を踏まえ、活用力を育てる教材開発や活動の工夫に努める。 ○主体的・協働的に課題解決する総合的な学習の創造 ・サイクリングマップの発信やチャレンジウィークのまとめの発信、地域応援プロジェクトの発信を行い、生徒が意欲と見通しをもって活動に取組み、地域への貢献意識が高まるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の定着と活用力の向上 ・課題未提出者の固定化の解消に向けて粘り強く取組んだ。 ・「全国学力」の課題を共有するとともに、ブロック研修での学びを交流し、授業改善に努めた。 ○主体的・協働的に課題解決する総合的な学習の創造 ・地域応援プロジェクトの企画・提案(1年)、修学旅行に向けた取組み(2年)、SDGsへの理解深めるワークショップ(3年)など、校外活動や外部講師との連携を生かした取組みを進めている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の定着と活用力の向上 ・引き続き家庭学習の確実な提出・確認・評価を丁寧に行っていく。 ・「全国学力」の課題である「無回答」の改善に向けて、授業において書いてまとめる指導やテストの工夫に努める。 ○主体的・協働的に課題解決する総合的な学習の創造 ・学習成果のまとめ・発信を通して課題解決の道筋を振り返らせ次年度への見通しをもたせるとともに、地域に貢献する活動への意欲を高めるようにする。 | |

5 取組の結果等

数値は2019年(R元年)調査等の状況

全国学力・学習状況調査(%) 〈児童生徒質問紙調査〉(%) (肯定的評価)

| | | | |
|----|-----------|-----------------|------|
| 国語 | 73(+0.2) | 自分にはよいところがある | 80.6 |
| 数学 | 56(-3.8) | 先生はよいところを認めてくれる | 93.6 |
| 英語 | 53(-3.0) | 将来の夢や目標を持っている | 90.4 |
| 英語 | 14(-17.6) | 人の役に立つ人間になりたい | 96.7 |

()は県平均との差

「基礎・基本」定着状況調査 〈児童生徒質問紙調査〉(%) (肯定的評価)

| | |
|----------------------------------|------|
| 学校へ行くのは楽しい | 90.0 |
| 「やりなさい」と言われなくても、自分から進んで勉強をしている | 67.5 |
| 授業では、課題について、「なぜだろう」「やってみよう」と思う | 72.5 |
| 授業では、友だちと話し合うなどし、考えを深めたり広げたりしている | 70.0 |

体力づくり改善計画【広島県体力・運動能力調査から】

| 県平均以上項目数 | 前回目標値に対する結果 | 重点課題 | 改善する取組内容・方法 |
|---------------|---|--|--|
| (男子) 12/24 | 重点課題に設定した、「上体起こし」「50m走」「立ち幅跳び」が、各学年18項目中6項目が平均以下となり継続する必要がある。 | 県・全国平均と比較すると、男女とも「50m走」が、全学年で平均以下となり重点課題である。 | ・各種目スピード、瞬発力に着目し、体育の授業において体系的に体づくり運動を実施する。また、ICT 機器の活用による動作分析により改善を行う。 |
| (女子) 10/24 | | | |
| 目標値 | <ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストにおいて、共通の課題である50m走の県平均以上の生徒の割合を50%以上にする。 ・県平均以上を上回る項目を30項目以上にする。 | | |

福山100NEN教育アンケート[対象:授業者](%)

| 質問項目 | 当てはまる | 当てはまらない |
|---------------|-------|---------|
| 仕事にやりがいを感じている | 85.7 | 14.3 |
| 仕事に充実感がある | 42.9 | 57.2 |

児童生徒アンケート(%)

| 質問項目 | 当てはまる | 当てはまらない |
|----------------|-------|---------|
| 授業で考えることが面白い | 79 | 21 |
| 自分の考えは、認められている | 79 | 21 |

(12)月実施